福島語かなづかい

2021年3月15日版

白岩広行作成

(標準語)

- 1 福島語では、「か行」「た行」および別表の50音図に示した「つぁ行」の音が濁音と同じ音で発音されることがある。例えば、「はたく」という語はハダグ [hadaɣü] と発音されることがある。しかし、これらの音は清音として発音されることもあり、すべて濁点をつけると読み書きしにくいいため、濁点をつけずに表記する。

例) (布団を) はたく

※ ハダグ [hadaɣü] とも発音されるが「はだぐ」とは表記しない。

- 2 福島語では、標準語の「き」に対応する音が語頭でチ [teĩ] と発音されることがある。しかし、この音はキ [ki] と発音されることもあるため、「き」と表記する。

例) きれ (布) ※ チレ [teĩre] とも発音されるが「ちれ」とは表記しない。

- 3 古典的な福島語では、ズーズー弁的特徴として、標準語の「い」と「え」、「し」と「す」、「ち」と「つ」、「じ」と「ず」に相当する音の区別がない。しかし、現代の福島語では多くの話者が区別するため、これらの音を標準語の区別に準じて表記する。

例) 書いた／変えた

※ 古典的な福島語ではどちらもカエダ [kaɛda] と発音されて区別がないが、標準語に準じて「い」と「え」を書き分ける。

例) くじ (籤) / くず (屑)

※ 古典的な福島語ではどちらもクズ [küzüü] と発音されて区別がないが、標準語に準じて「じ」と「ず」を書き分ける。

- 4 福島語に特徴的な終助詞・間投助詞の「ハ」は、係助詞 (とりたて詞) の「は」と区別するためにカタカナで表記する。

例) それはハー、早めにやっちゃまうべハ。

- 5 福島語では格助詞の「が」「を」を使わずに主語、目的語を表すことが多いが、助詞を書かないと読みにくいことがあるため、書きことばでは適宜「が」「を」を補う。

例) 「犬穴掘ってる。」では読みにくいので「犬が穴を掘ってる。」と書く。

(福島語)

- 1 福島語では、「か行」と「た行」、あと、別にした 50 音図の「つあ行」の音が濁音と
同じ音で発音されるときがある。例えば、「はたく」つつう単語はハダグ [hadaɡü] って
発音されるときがある。ほだけんと、清音として発音されることもあるし、わざわざ全部
さ濁点つけと読み書きしにくいから、濁点つけねえで書くことにする。

例) (布団を) はたく

※ ハダグ [hadaɡü] って発音されるときもあつけど、「はだぐ」ってのは書かねえ。

- 2 福島語では、標準語の「き」にあたる音が単語の頭でチ [teï] って発音されるときがあ
る。ほだけんと、キ [ki] って発音されるときもあつから、「き」って書くことにする。

例) きれ (布)

※ チレ [teïre] って発音されるときもあつけど「ちれ」ってのは書かねえ。

- 3 古典的な福島語は、ズーズー弁だから、標準語の「い」と「え」、「し」と「す」、「ち」
と「つ」、「じ」と「ず」にあたる音の区別がねえ。ほだけんと、現代の福島語では、だ
いたいみんな区別して発音してつから、書くときも標準語と同じように区別して書くこ
とにする。

例) 書いた／変えた

※ 古典的な福島語だとどっちもカエダ [kaɛda] で区別ねえけん、標準語と同じ
ように「い」と「え」を書き分ける。

例) くじ (籤) / くず (屑)

※ 古典的な福島語だとどっちもクズ [küzü] で区別ねえけん、標準語と同じよ
うに「じ」と「ず」を書き分ける。

- 4 福島語でよく使う終助詞・間投助詞の「ハ」は、係助詞 (とりたて詞) の「は」と見分
けがつくようにカタカナで書くことにする。

例) それはハ一、早めにやっちゃうべハ。

- 5 福島語では格助詞の「が」とか「を」を使わねえで主語と目的語を表すことが多い。ほ
だけんと、助詞を書かねえと読みにくいときがあつから、書きことばでは必要なときに
「が」とか「を」をつけることにする。

例) 「犬穴掘ってる。」では読みにくいから「犬が穴を掘ってる。」って書く